

# 男性寿命 初の80歳超え

厚生労働省は31日、2013年の日本人の平均寿命は女性86・61歳、男性80・21歳で、いずれも過去最高を更新したと発表した。前年より女性は0・20歳、男性は0・27歳伸び、男性は調査が始まった1891年以来初めて80歳を超えた。女性は2年連続で長寿世界一となった。

## 女性 86.61歳 世界一守る

### 昨年 80.21歳

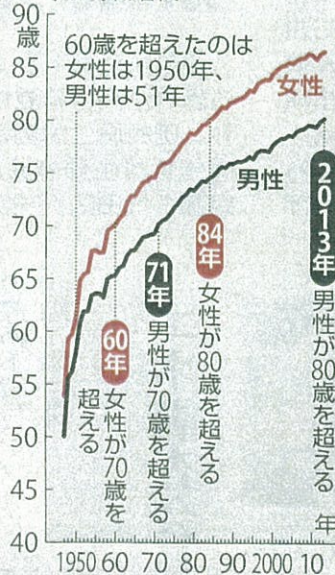
厚生労働省によると、がんや心疾患、脳血管疾患、肺炎で亡くなる割合が下がったことが、平均寿命の伸びにつながっている。厚生労働省は「医療技術の進歩で、今後平均寿命は延びる余地がある」と分析している。世界各国・地域の最新統計との比較では、女性が香港(86・57歳)を僅差で抑え、長寿世界一の座を守った。男性も前年の5位から4位に順位を上げた。男性のト

| 男性             | 女性             |
|----------------|----------------|
| ①香港……………80.87歳 | ①日本……………86.61歳 |
| ②アイスランド…80.8歳  | ②香港……………86.57歳 |
| ③スイス……………80.5歳 | ③スペイン………85.13歳 |
| ④日本……………80.21歳 | ④フランス………85.0歳  |
| ⑤シンガポール…80.2歳  | ⑤スイス……………84.7歳 |

平均寿命上位の国・地域  
厚生労働省が最新の各国政府統計などから作成

平均寿命 その年に生まれた子どもが、平均で何歳まで生きるかを予測した数値。厚生労働省は毎年、各年齢の人が平均してあと何年生きられるか(平均余命)の予測値を計算しており、平均寿命は、そのうち0歳の平均余命を指す。厚生労働省によると、初めて調査した1891～98年(明治24～31年)の平均寿命は、男性42.8歳、女性44.3歳だった。

◆日本人の平均寿命の推移  
厚生労働省調べ



将来、どの死因で死亡するかを計算した「死因別死亡率」では、がん、心疾患、脳血管疾患の「3大死因」で亡くなる確率は、男性で52・42%、女性は48・46%で、4年前(2009年)と比べ、男性は2・23%、女性は3・38%下がっている。

日本人の平均寿命は、男女とも終戦直後の1947年(昭和22年)は50歳代だったが、香港(80・87歳)。

51年には男性がそれぞれ60歳を超えた。その後、女性は60年には70歳代、84年には80歳代に到達し、2002年には85歳を超えた。男性が70歳代になったのは71年で、その後、約40年かけて10歳分延びたことになる。

2010年まで女性は26年連続で長寿世界一だったが、東日本大震災などの影響で途切れ、その後、再び2年連続で世界一となった。